

国・特別天然記念物（地域を定めず）

# ライチョウ

指定年月日 大正12年3月7日  
昭和30年2月15日（特天）



（提供：岐阜県博物館）

ライチョウは日本特産の亜種で、氷河期に南下したものが、その後温暖な気候が回復して氷河が後退したため、高山にのみに取り残されたいわゆる遺存種である。主に北アルプス、南アルプスのほか中央アルプスにも生息している。夏には主に褐色に黒色黄斑の羽毛であるが、冬期純白色になることから保護色の典型的な例としても有名な鳥である。

近年、ライチョウのすみかである中部山岳の高山への登山道の整備、山小屋の建設が進み、これに伴って登山者が増え、高山帯の環境が変化している。また、カラスやドブネズミ、キツネなどの天敵が侵入し、ライチョウの生息に影響を与えることが心配されている。